

第一回入学式祝辞

私ハ理事長トシテ所感ヲ述ベテ祝辞ニ代ヘタイト思ヒマス。此ノ学校ノ設立ニツキテハ今ヨリ四年前ヨリシテ、一木校長ヲ始メ前ノ臨時教育會議總裁平田子爵及前ノ文部大臣岡田良平、当時ノ帝国大学総長山川男爵、学習院長北條時敬、高等師範学校教授佐々木吉三郎及宮島清次郎、本間則忠、正田貞一郎ノ諸君ニ御相談ヲ願ヒマシテ施設経営ノ方法ヲ定メ着々ト之ヲ実現シテ、本日茲ニ入学式ヲ挙グルコトヲ得タノハ誠ニ欣懐ニ堪エザル所デアツテ、御尽力下サツタ諸君ニ対シ深ク感謝スル次第デアリマス。叔私ノ資産ヨリ視レバ分ニ過ギタ寄付ヲシタノデアリマスガ、之ト云フノモ實ハ何カ社会国家ノ為ニ尽シテ見タイト云フ感念ヨリ、其ノ社会国家ノ為ニ尽スニハ偉大ナル人物ヲ養成スルコトガ必要デ、其ノ偉大ナル人物ヲ養成スルニハ理想的ノ学校ヲ立テ理想的ノ教育ヲスルコトガ適當ナリトシテ此ノ学校ヲ設立シタノデアリマス。然ルニ唯今入学セラルル生徒諸君ハ千百有余名ト云フ多数ノ志願者中ヨリ抜擢セラレタ方々デアリマス。早イ話シハ其ノ入学試験ノ如キ人世行路ノ第一歩トシテ實ニ險阻ナル山モ打越ヘタノデアリマス。流レノ急ニシテ底深キ谷川モ既ニ涉ツタノデアリマス。而シテ激烈ナル競争試験ノ優勝者トシテ難関ヲ通過シタル勇武ノ士デアリマスカラ、諸君ハ将来世ニ立テ仕事ヲスル頃ニハ屹度私ガ希望シテ居ル所ノ偉大ナル人物ト為ラルルコトト信ズルノデアリマス。

生徒諸君ヨ、私ハカク有望ナル生徒諸君ニ向ツテ、最モ祝福シテ已マザル所ノ一事ガアリマス。其ハ外デモアリマセンガ本校ガ校長ニ戴クコトヲ得マシタ所ノ一木博士ハ諸君モ御承知ノ通り徳望一世ニ高ク學識内外ニ涉リテ博ク諸君ノ模範トシテ仰クベキ御方デアラセラレマス。又山本教頭其ノ他ノ教員諸君モ打揃フテ立派ナル教育者デアラセラルルノハ生徒諸君ニ採リテ何ヨリノ奉慶ト存ズルコトデアリマス。顧フニ財産ヲ寄付シテ教育事業ヲ興スコトハ資金サヘ投ズレバ誰レニデモ容易ニ出来マスガ、斯ノ如キ崇高ナル校長ヲ戴キ斯ノ如ク打揃ツタ良教員ヲ得ルト云フコトハ金錢デハ容易ニ出来ナイコトト信ズルノデアリマス。

生徒諸君ハ今ヨリ此ノ学校ニ於テ斯カル立派ナル校長ノ徳化ト斯カル立派ナル教員ノ薰陶ヲ受ケテ、各其ノ天才ノ發達ニ努メタナラバ必ヤ将来社会ニ立ツノ曉ハ或ハ權威アル政治家ト為リ、或ハ古今ヲ照ラス学者ト為リ、或ハ經濟界ノ覇者ト為ル等社会国家ノ為ニ最モ有益ナル人物ト為ラルルコトト思ハレマス。今ヨリ十分ノ実績ヲ挙ゲラルル様心懸ケラレンコトヲ望ミマス。

終リニ私ノ經驗談ヲ付ケ加ヘテ留意ヲ促シテ置キタイト思ヒマス。私ハ本年六十三才ニ為リマスガ、私ノ經驗ニ依リマスト幼少ノ折リニ習ヒ覚エタ事程イツマデモ能ク記憶シテ居ルコトハアリマセン。又其ガ事ヲ為スニ方リテ最モ役ニ立ツノデアリマス。然ルニ四十、五十ノ歳ニ為ツテカラハ、イクラ骨ヲ折テモ覚エル先カラ忘レル様ナコトデ如何トモ致シ方ガアリマセン。私モ先年洋行ヲスル際ニ外国語ノ稽古ヲシタコトガアリマシタガ、習フ先キカラスグ忘レルト云フヨウナ次第デ、深く此ノ事ヲ感ジタ様ナ訳デアリマスカラ、生徒諸君ハ今ノ時ニ方ツテ特ニ茲ニ留意シ将来大成ヲ為スノ基礎ヲ作ル上ニ非常ニ大切ナ時期デアルト云フコトヲ牢記シテ貫ヒタイノデアリマス。

此ノ芽出度入学式ヲ挙ゲラルルニ方リ以上私ノ所感ヲ述ベテ祝辞ニ代フル次第デアリマス。

大正十一年四月十七日

根津育英会理事長

根津嘉一郎

平成二十四年四月吉日建碑

根津翁建碑委員会

理事長

学園長

根津公一

有馬朗人